

JCR 50周年記念事業について

日本放射線科専門医会・医会 副理事長・JCR 50周年記念事業担当理事
高野英行(千葉県がんセンター)



1973年に第1回放射線科専門医試験があり、それにより誕生した放射線科専門医により、「放射線科専門医の会」が発足しました。その後、2001年に放射線科医会と合併し、現在の日本放射線科専門医会・医会となりました。本年は、レントゲン博士没後100年にあたり、放射線診療における節目的な年であるので、放射線医療に関する情報発信を行う予定です。

まず、JCRニュースの充実と、A4判化、Journal of the Japanese College of Radiologyとして、査読のある学術誌化です。今後、専攻医終了要件である学術誌への掲載要件があるため、多くの論文収載が期待されます。そのため、専攻医が入会できる要綱の改正等を行いました。

JCRフェロー制度を設けることとなりました。JCRフェローは、日本放射線科専門医会・医会(JCR)の活動に大きく寄与され、今後、更なる発展と本会への大きな貢献を期待して贈る称号であります。ミッドウィンター、ミッドサマーセミナー等の講師、理事などをされ、当会に貢献された方々に対して贈られます。今年からは、フェローまたは特別会員、2名からの推薦の後に、選考委員および理事会での審査により決定し、ミッドサマーセミナー時に授与式が行われます。

セミナー講演者等に対する記念品を作成しました。一つは、モレスキンの手帳です。JCRの沿革が載っており、表紙には、JCR50周年ロゴがエンボス加工されています。もう一つは、レントゲン博士の写真と、JCR50周年ロゴが入ったマグカップです。希望者は、セミナー等の機会に、購入可能です(図)。

次は、ビデオ制作です。40周年パーティーの時に作成したビデオは、セミナー等の冒頭で流されたので、見た方も多いためと思われそうですが、パーティー出席者に配られ、学生、研修医に対するアピールにもなったため、前回作製の今井氏に依頼し、作成中です。

第31回日本医学会総会への出展(会期:2023年4月20日(木)~4月23日(日):東京国際フォーラム ホールE)にて展示を行います。日本医学放射線学会、日本放射線科専門医会・医会日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本磁気共鳴医学会、IVR学会、JRC(日本ラジオロジー協会)の放射線関連団体が共同で、出展します。来場者数は、登録会員 3万5千人、一般市民 50万人(リ



図 50周年記念品(モレスキンの手帳とマグカップ)

アル会場への来場+オンラインバーチャル会場への来場)を数える大きな会となります。放射線医療の誕生・進化・発展のあゆみ、2023年はレントゲン博士没後100周年。X線の発見が、今日の放射線医療につながっています。今回のブースでは先人たちの功績を振り返り、技術や装置の進化の歴史、更に未来について解説。また放射線医療に携わる、放射線科医、診療放射線技師、医学物理士、装置メーカーの人たちが診断・治療の分野で貢献し、欠かすことの出来ない存在であることを紹介し、来場者が放射線医療についての正しい基礎知識を得られる内容とします。

また、ステージの企画案として、ラジエーションハウス(テレビ、映画)での技師長役の遠藤憲一さんへ、出演依頼中であり、放射線科医に対する質問(一般の方からのアンケート内容、遠藤さんが放射線医療に対する疑問など)を、質問してもらった場面を撮影し、事前収録したビデオで現地の放射線科医と問答している形を想定しています。

50周年記念パーティーは、2023年11月3日14時~18時(仮押さえ中、変更の可能性もあり)にて行う計画を立てています。場所の正式決定はされていませんが、都内で、全国からの交通の便の良い会場を考えています。招待客、会場のキャパシティの問題があるので、会費は有料で、事前に参加者を確定する予定です。この時のビデオを、ミッドウィンターセミナー、ミッドサマーセミナー時のパーティーで流し、50周年記念パーティーの雰囲気を出せるような祝賀パーティーを行う予定です。セミナー参加者が無料で参加できるパーティーしたいと思います。

これ以外にも、多くの方々のアイデアを頂戴しながら、放射線科診療を国民や他の診療科にアピールしていきたいと思っています。